

Fig. S1. 複層林調査区における各階層の胸高直径の推移。
 期末の測定値はすべての階層間で有意差がみられた(調査区を变量効果とする一般化線形混合効果モデルおよびTukeyの多重比較, $p < 0.001$)。箱ひげ図の横向きの実線は中央値、上下のバーは四分位範囲の75パーセンタイルと25パーセンタイル、黒丸は外れ値を示す。

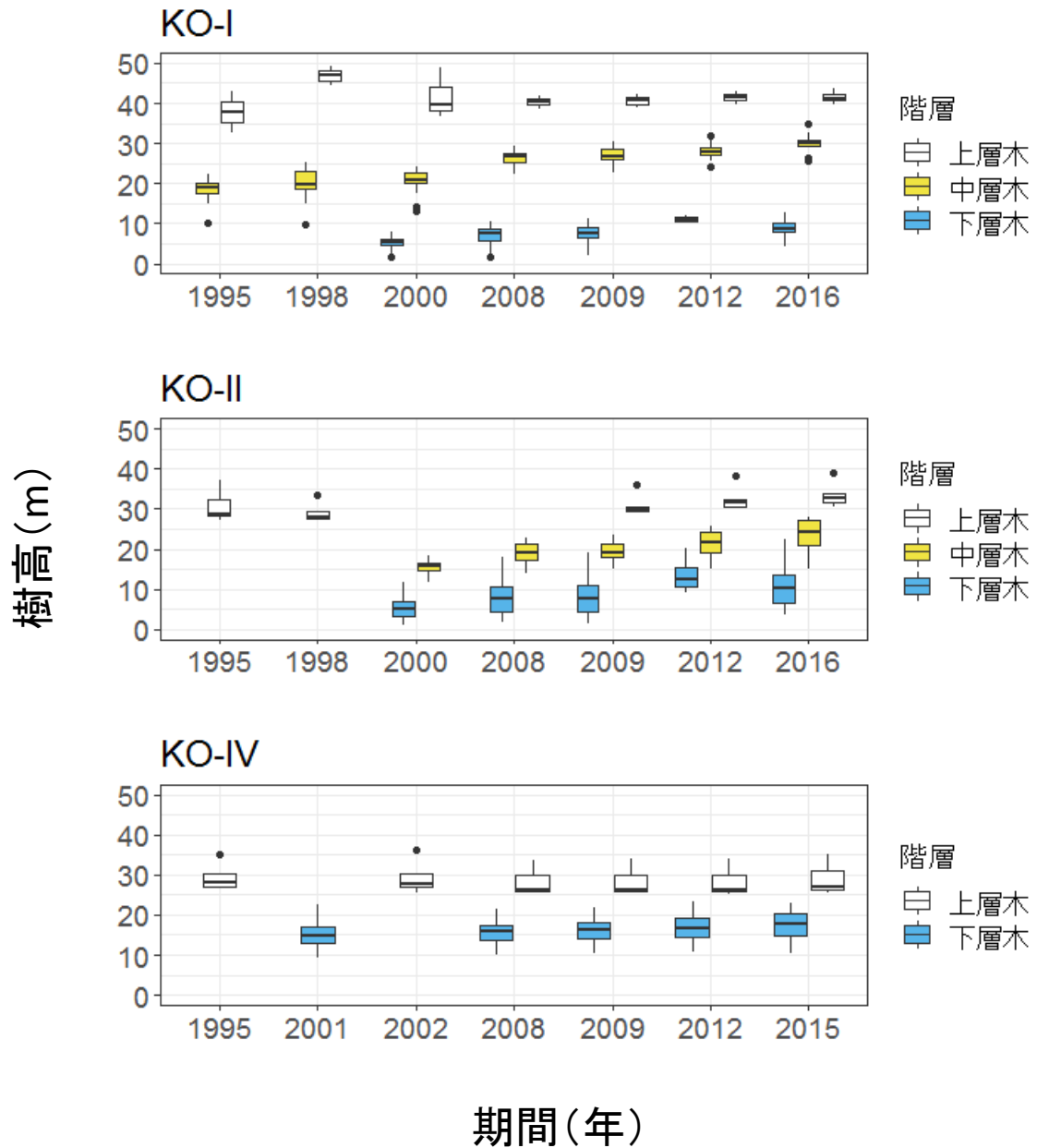


Fig. S2. 複層林調査区における樹高の推移。

期末の測定値はすべての階層間で有意差がみられた(調査区を变量効果とする一般化線形混合効果モデルおよびTukeyの多重比較, $p < 0.05$)。箱ひげ図の見方はFig.1に従う。

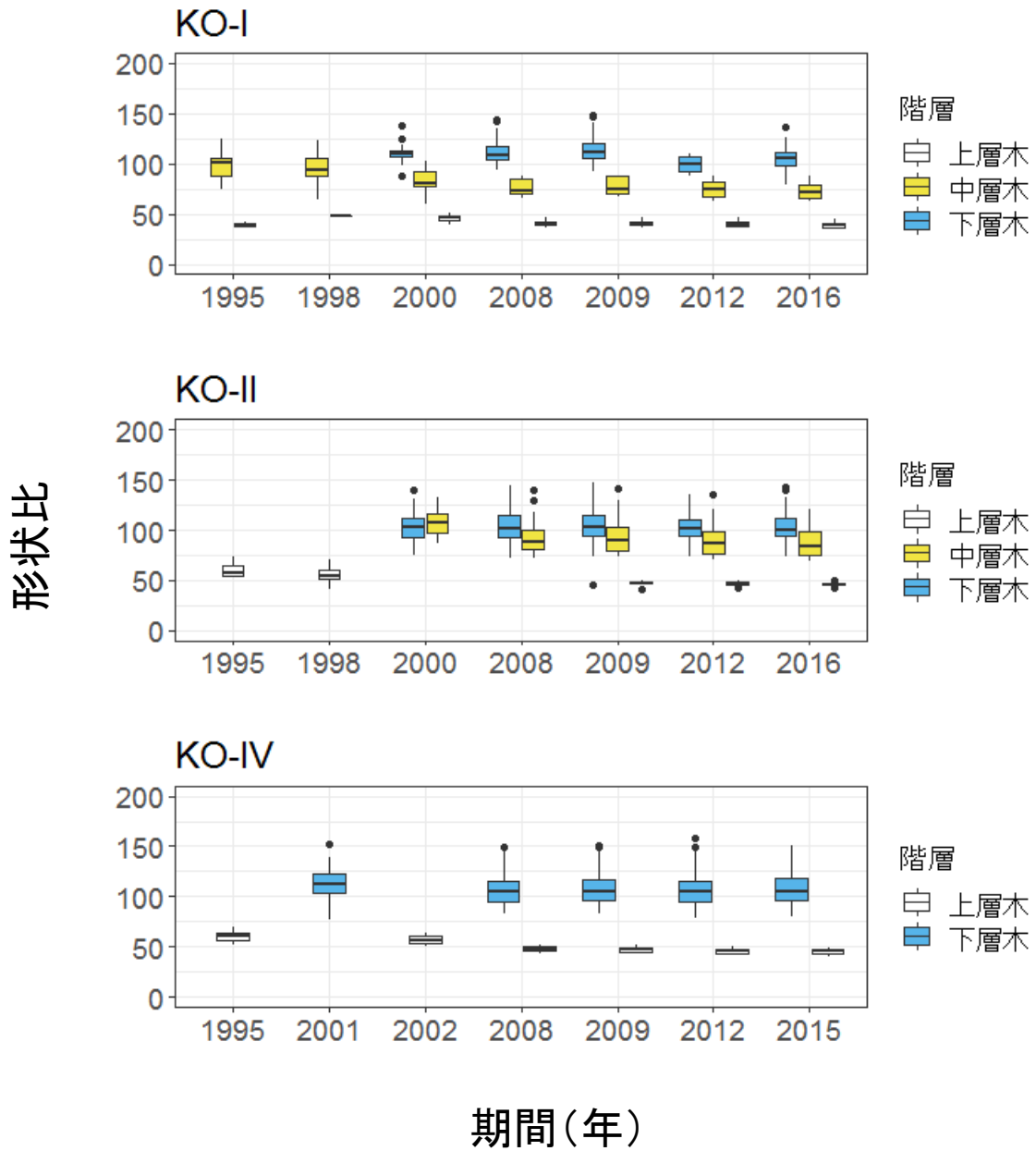


Fig. S3. 複層林調査区における形状比の推移(胸高直径5 cm以上)。
 期末の測定値はすべての階層間で有意差がみられた(調査区を変量効果とする一般化線形混合効果モデルおよびTukeyの多重比較, $p < 0.001$)。
 箱ひげ図の見方はFig.1に従う。

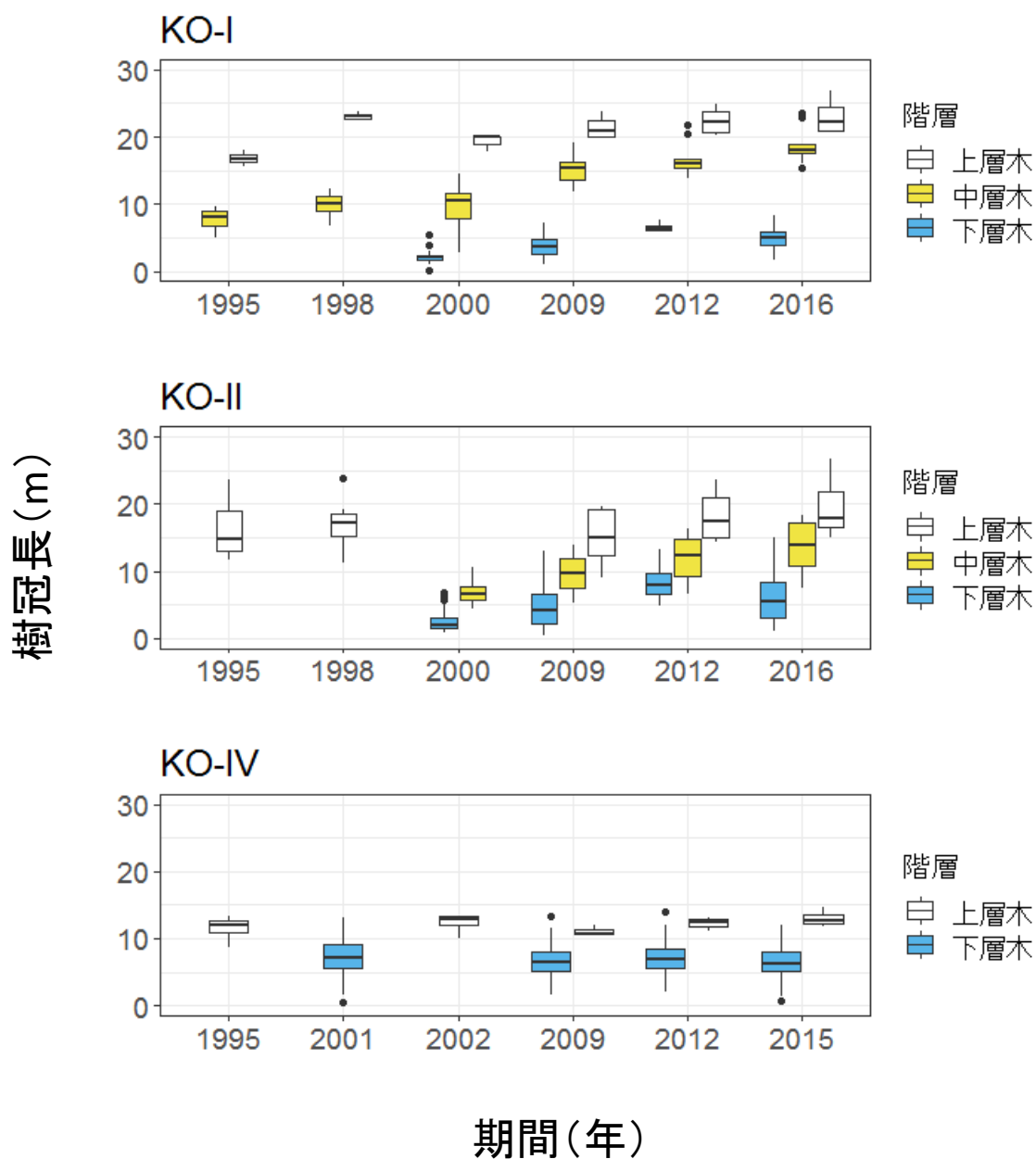


Fig. S4. 複層林調査区における樹冠長の推移。

期末の測定値は上層木—中層木間では有意差がみられなかったが、上層木—下層木間および中層木—下層木間では有意差がみられた(調査区を
変量効果とする一般化線形混合効果モデルおよびTukeyの多重比較, $p < 0.001$)。

箱ひげ図の見方はFig.1に従う。

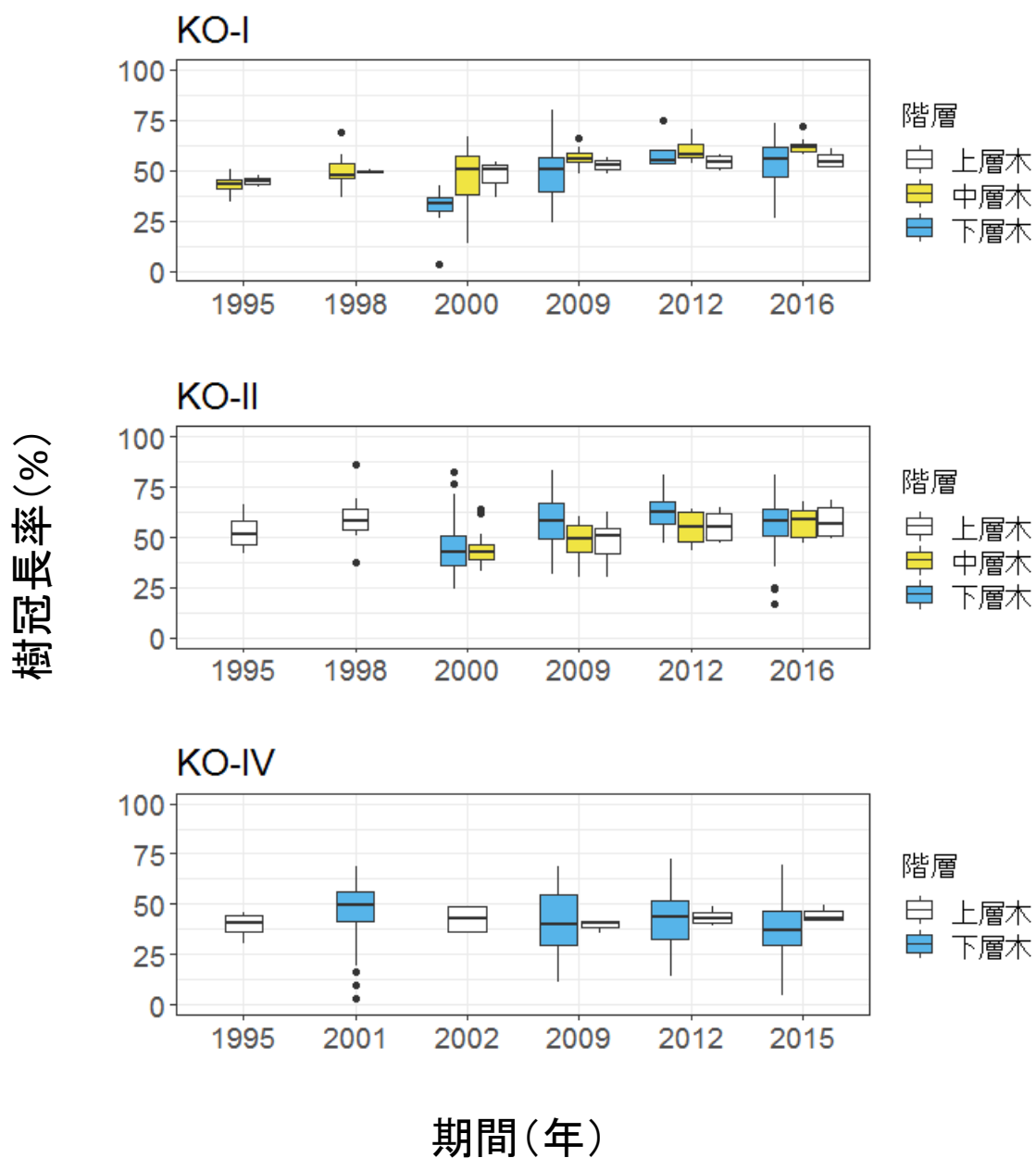


Fig. S5. 複層林調査区における樹冠長率の推移(胸高直径 5 cm以上)。
 期末の測定値はすべての階層間で有意差はみられなかった。(調査区を
 変量効果とする一般化線形混合効果モデルおよびTukeyの多重比較, $p >$
 0.05)。
 箱ひげ図の見方はFig.1に従う。